



# 気象変動に備えた、 良質で安定した収量の米を作るための

# ふさおとめ 栽培暦

- ①「ふさおとめ」は、登熟期の高温下でも乳白米等の未熟粒が発生しにくい品種です。
- ②早生品種の特色を活かし、大粒で良品質・良食味な米を早期出荷して早場米ブランドを推進しましょう。
- ③極端な疎植は避け、適正施肥量を守り、早めに茎数を確保して、収量は10a当たり540～600kgを目指しましょう。

## 品種の特性

- 大粒で、高温登熟下でも未熟粒の発生が少なく品質は良好。
- 「コシヒカリ」並みの食味。
- 成熟期は「コシヒカリ」より2週間早い早生品種。
- 収量性は「コシヒカリ」に優る。
- やや短稈だが、耐倒伏性はやや弱い。
- 耐冷性は「極強」である。
- いもち病抵抗性は「コシヒカリ」より強いが、「ふさこがね」より弱い。
- 苗は草丈が短く、充実している。
- 本田での初期生育は旺盛で、「コシヒカリ」より分けつ・穂数が多く、1穂に着く粒数は「コシヒカリ」より少ない。

## 適正生育量

栽培密度	55～60株/坪(17.0～18.5株/m <sup>2</sup> )	
穂数	砂質土、壤質土	470～500本/m <sup>2</sup>
	粘質土	440～470本/m <sup>2</sup>
粒数	砂質土、壤質土	28,000～32,000粒/m <sup>2</sup>
	粘質土	28,000～30,000粒/m <sup>2</sup>
登熟歩合	85%	
千粒重	23.0～23.5g	
稈長	80cm以下	

月旬	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業	は種			田植			中干し			穂肥			収穫			乾燥・調製					
生育ステージ	浸種・催芽			育苗			除草剤散布			有効分けつ終止期			幼穂形成期			出穂期			成熟期		

# 栽培のポイント

## 催芽を確実に実施し健苗育成

- 箱当たり播種量は乾もみで150gとする。
- 浸種水温は必ず10℃以上とし、浸種期間を長く(10℃で10～14日程度)する。
- 催芽は確実に実施し、ハト胸状態を確認してから播種する。
- 「コシヒカリ」に比べ苗が伸びにくいので、育苗培土の窒素量は箱当たり1.2～1.5gとし、出芽・緑化期の適正温度を確保する。

## 品質重視の基肥窒素量を厳守

- 土壌別基肥窒素量(kg/10a)
  - 砂質土：4～5kg、壤質土：3～4kg
  - 粘質土：房総南地域1～2kg、その他地域3kg
- りん酸8～9kg/10a、加里7～8kg/10aを施用する。
- 基準以上の多肥は、品質・食味の低下、倒伏やいもち病の発生を助長するので行わない。

## 極端な疎植を避け、適期に植える

- 早期収穫のためには移植時期は4月10日～20日が好適である。
- 倒伏や減収を防ぐため、5月連休明けまでには移植する。
- 栽培密度は55～60株/坪(17.0～18.5株/m<sup>2</sup>)程度とし、極端な疎植にしない。植付け本数は3～5本/株とする。

## 幼穂形成期に理想的な稲の姿を目指す

### 生育目標値

	砂質土、壤質土	粘質土
草丈	55cm以下	55cm以下
茎数	570～620本/m <sup>2</sup>	520～570本/m <sup>2</sup>
葉色	38～42(SPAD値)	38～42(SPAD値)

## 適切な水管理で品質、登熟の向上を図る

- 幼穂形成期の目標茎数の80%となる、5月下旬～6月第1半旬頃から中干しを開始する。
- 幼穂形成期～出穂後2週間は湛水管理を行う。
- その後は間断かんがいで管理し根の活力を維持しながら粒の充実に努める。

## 穂肥は出穂前18日までに、実肥はやらない

- 穂肥は、幼穂形成期の生育目標値の範囲内のときは、出穂前25～18日(幼穂長1～10mm)に窒素と加里を3kg/10a施用する。
- 生育が目標値より大きい場合は窒素を減量し、下回る場合は出穂前25日(幼穂長1mm)に穂肥を施用する。
- 出穂前18日以降の追肥は玄米中のタンパク含量が増加し、食味の低下を招くので行わない。特に実肥は厳禁。

## 斑点米の発生を防いで、1等米を生産

- 出穂が他品種より早いカメムシ類の被害を受けやすい。発生予察情報に注意し、また圃場を見回り、必要に応じて適期防除を心がける。

## 刈取り適期と調製基準を守り、最後の仕上げを

- 刈取り適期は出穂後33日前後で、穂全体の85%が黄化したときを目安とする。
- 高温での急激な乾燥は避け、過乾燥に注意して、14.5～15.0%に仕上げ乾燥する。
- 選別のふるい目は1.8mm以上とする。

その他の技術は慣行の基本技術で栽培する

栽培のポイントを守り良質米の生産に努めましょう

千葉県・千葉米改良協会